

## 第2節 生態系・鳥類

現在の三番瀬は、埋立てによる海域面積の減少と河川とのつながりの弱まり、後背湿地の消失、地盤高の低下等による浅海域化、周辺部の都市化等、多くの急激な変化により干潟環境の多くが失われました。このため、干潟環境に依存して生息する魚類や底生生物、また水生植物の多くが姿を消し、その他の生物の種数や個体数も減少し、生態系も変化しました。

また、三番瀬は現在でも多くの水鳥類が依存する重要な湿地ですが、個体数の減少した種や営巣しなくなった種もいる等、生息地としての重要性の低下が指摘されます。

このことから、かつての健全で豊かな生態系の回復や、干潟に特有な生物種の回復を図り、生物多様性を高め、様々な生物種が安定して生息できるようにすることが重要です。

そのため、干潟的な多様な環境の創造を目指すとともに、行徳湿地や河川等と三番瀬の連続したつながりの回復を目指します。

### 三番瀬の生物・鳥類



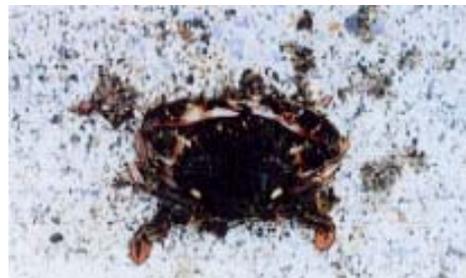
(ニホンドロソコエビ)



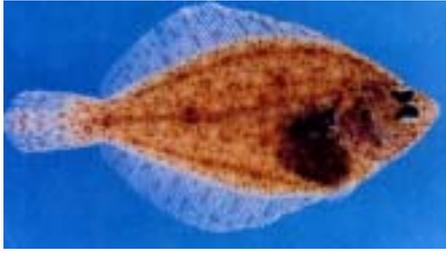
(アシナガゴカイ)



(アサリ)



(イシガニ)



(イシガレイ(稚魚))



(マハゼ(稚魚))



(アナアオサ)



(スサビノリ)



(ハマシギ)



(キアシシギ)



(スズガモ)



(シロチドリ)